

平成30年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園幼稚園】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切に『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期的目標

- 1 アシステンツァを実践する
 - ① キリスト教精神に基づく教育活動の実践
 - ② 教職員対象のカトリック教育
 - ③ 創立者ドン・ボスコと共同創立者マリア・マザレロについての学び
 - ④ 保護者の啓発
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - ① 危機管理及び防災備蓄体制の確立
 - ② 咄嗟に備えた対応力の要請－臨場感のある実地訓練の実施
 - ③ 安全管理体制の公開及び発信
- 3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する
 - ① 学園全体の教職員研修の実施
 - ② 社会貢献活動の展開
 - ③ 教育活動従事者としての意識と技術の向上
- 4 幼稚園ブランディングプロジェクトを推進する
 - ① 予防教育法の一層の充実
 - ② 幼稚園ブランディングプロジェクトの推進
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - ① 教職員間のコミュニケーション円滑化－教職員紹介ブックの作成
 - ② 園児・児童・生徒、保護者への挨拶の励行
 - ③ お客様、業者への挨拶の励行

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

7. 自己評価アンケート結果と分析	4. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○この幼稚園に通わせて満足している ○教職員は気持ちの良い挨拶を行っている ○幼稚園の教育方針に共感できる ○子どもたちへの安全教育が充実している <p>(すべて満足度93%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの応用力が養われている ○地域との連携を積極的に図っている ○幼小中高の連携が取れている 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。平成30年度学校評価に関する検討は令和元年5月28日（火）に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全般について <p>「幼稚園を選ぶ上で、重視した点に関する結果」と「満足度に関する結果」から分かるとおり、満足度は高く、例年同様に幼稚園の総合的環境もよく保護者の期待に沿っているものと考えられる。</p> ○教育内容とその効果について <p>「感性」「応用力」「自分で判断し、行動できる力」については評価を落としているが、いずれも幼稚園だけで完結するものではないため、幼稚園と保護者が連携し育てていくべきと考えられる。</p> ○体制について <p>園長の方針が徐々に浸透し、子どもたちに対する指導が行き届いてきたことが保護者にも実感できているのは喜ばしい。一方で、比較的若い教員の離職が一部の保護者に不安を感じさせている点もあるように思われる。より一層の体制の充実を図りたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 アッシステンツアを実践する	ドンボスコのように、子どもたちと共に、子どもたちのために	ア) 子どもたちが「愛されている喜び」を味わえるよう、子どもを中心に置いた保育を実践する イ) キリストの教えと創立者ドン・ボスコとマリア・マザレロの生き方を学ぶ ウ) 身近な人々に心を向け、感謝の心を持てるよう、生活のいろいろな機会を捉えて伝えていく	学校評価アンケート結果を評価指標とし、それを踏まえて自己評価を実施することとする。 設問「教職員は子どもにあたたかい態度で接し、信頼関係を築いている」のA・B評価が90%以上。 設問「教育方針に沿った教育を行っている」のA・B評価が85%以上。 設問「子どもは、感謝の気持ちを大切にしている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 91.7%。高い評価を得ているが、子どもを中心にした幼稚園と家庭の協力体制をさらに強固にしていく必要がある。(○) イ) A・B評価 92.8%。あらゆる教育の場、及び研修の機会を設け、意識改革につなげることができた。(◎) ウ) A・B評価 86.2%。日常の様々な活動を通じて、関わる人たちに感謝の気持ちを持ち、それを伝えるように指導できた。(○)
2 全「園児・児童の安全管理を徹底する」の安	安全教育を実施し、安全・安心のための教育環境整備を行う	ア) 防災・減災の知識を深めるための有効な訓練や研修を実施し、交通安全指導を実施する イ) 安全・安心の為の教育環境整備を行う	設問「子どもたちへの安全教育を実施している」のA・B評価が90%以上。 設問「園の施設・設備は、安全管理が行き届いている」のA・B評価が90%以上。	ア) A・B評価 93.4%。従前の計画を見直し、様々な状況や視点での安全教育を実施した。(◎) イ) A・B評価 91.7%。高い評価は得られたものの、老朽化に伴う改修箇所が増えているため、さらに安全環境整備に尽力する必要がある。(○)
3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成	教職員の資質向上を目指した研修を実施する	ア) 教育者としての意識向上とスキルアップを図る イ) 教員相互の円滑な人間関係作りと連帯感に基づく協働意識を醸成する ウ) 日常のかつタイムリーな情報交換を行う	設問「教員の心配りが行き届いている」のA・B評価が80%以上。 設問「教職員は、協力し合って保育を行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「個人情報を適切に取り扱っている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 88.4%。教員の資質向上を図るための研修の機会をさらに増やす必要がある。(○) イ) A・B評価 92.3%。評点は非常に高いが、組織の一員としてのさらなる自覚を促し、幼稚園経営への参画意識を醸成する必要がある。(◎) ウ) A・B評価 93.4%。日々の連絡会などを使い、時機を得た情報交換、及び、共通理解に努めた。(◎)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 幼稚園ブランディングプロジェクトを推進する	予防教育法を研究し実践する	<p>ア)自分で考えて判断し、行動できるようになる</p> <p>イ)園の行事を通じてさまざまな力を養う</p> <p>カ)園生活を通じて基本的な生活習慣を身につける</p>	<p>設問「自己の課題に向けて全力で挑み、解決しようと努力できるようになった」のA・B評価が80%以上。</p> <p>設問「幼稚園の行事が楽しいと言っている」のA・B評価が80%以上。</p> <p>設問「子どもに基本的な生活習慣が身に付くような生活指導を行っている」のA・B評価が80%以上。</p>	<p>ア)A・B評価 82.3%。子どもたちが自分で遊びを見つけられるよう工夫した。結果、前年度より評価が上昇し、特に年中の評価が高かった。(○)</p> <p>イ)A・B評価 92.8%。全学年を通じて9割以上の高い満足度を得られている。(◎)</p> <p>カ)A・B評価 91.2%。全学年を通じて非常に高い評価を得られた。特に年少の満足度は100%であった。(◎)</p>
5 自然に挨拶が交わされる学園にする	教職員が率先して挨拶を励行する	<p>ア)教職員間で挨拶を励行する</p> <p>イ)園児に対し挨拶の大切さについて指導を継続し、励行を促す</p> <p>カ)より良い教育共同体作りに努める</p>	<p>設問「教職員は、気持ちの良い挨拶を行っている」のA・B評価が85%以上。</p> <p>設問「子どもは、友達と一緒に遊ぶことを心から喜び、積極的に関わることができるようになった」のA・B評価が80%以上。</p> <p>設問「幼稚園は、地域との連携を積極的に図っている」のA・B評価が80%以上。</p>	<p>ア)A・B評価 93.9%。校種、職種を問わず、挨拶の習慣が定着してきた。今後は具体的な活動レベルの連携へと発展させる必要がある。(○)</p> <p>イ)A・B評価 88.4%。教職員が範を示すことで、園児のみならず、保護者間における円滑なコミュニケーションにつながっている。(◎)</p> <p>カ)A・B評価 40.6%。幼稚園教育活動の良き理解者である保護者の信頼度をさらに強固にしていく必要がある。(△)</p>